



松浦敏信 議員

地域社会での安心まちづくり

問 空き家に対する認識や問題意識はどうか、広陵町における空き家の件数、現在の空き家住宅情報サイトについてお聞きます。

平岡町長 現状の空き家の所有者については把握いたしておりませんが、町内には何軒かの空き家が存在し、地域が見守っています。空き家となった原因としては、故郷として残しておきたい。老夫婦共亡くなられ譲渡先が見つからない、老朽化による建物の解体費用がない等さまざまです。今後は、先進事例を研究しながら、安全安心のまちづくりのため、関係機関との連携を図り把握してまいりたいと思います。

空き家に伴う防災・防犯について

問 空き家に伴う防災・防犯等の問題点についてお聞きます。

平岡町長 空き家に関する問題点としては、雑草や樹木が生い茂り、古

い瓦や壁の崩れ、近隣の景観への影響、犯罪の温床、不審火等の安全面、動物の住み家になり、衛生面への影響が挙げられます。しかし、空き家へは所有者の了解なしで立ち入ることができません。そのため、隣近所の方々から環境上や防犯上の問題に関して改善の要望があれば、所有者に対し文書で剪定等の依頼を行い、香芝広陵消防組合におきましては、消防法及び火災予防条例に基づき指導も行っていきます。

空き家に関する自然増加の現状

問 空き家の増加に伴う野生の猿や狸等の繁殖についてお聞きます。

平岡町長 野生猿につきましては、奈良県農林部林政課鳥獣保護係によりますと、信貴生駒山系の野生猿の群れから離れたオスの「離れ猿」ということであります。県、警察、保健所等関係機関と連携を取りながら警戒をすることになります。また狸に関しては本町において捕獲例がわずかで年間1頭の捕獲もない状況であり、繁殖の実態は把握できていません。一方、外来種であるアライグマはおりで捕獲することが許されており、年間10頭程度捕獲されています。



山村美咲子 議員

乳幼児医療の助成拡大を！

問 乳幼児医療費の助成事業は、安心して子どもを生んで育てられる環境づくりを進める少子化対策の重要な施策。子育てに夢や希望を持てるまちづくりを進めることが重要かつ喫緊の課題である。安心して子育てができる町をめざし、乳幼児医療を子ども医療として中学3年生まで拡大していただきたい。

平岡町長 中学生に拡大した場合、平成22年度実績をもとに試算した結果、8,500万円余りの予算が新たに必要。年々増加する医療費とともに、無料化による受診増加も想定されることから、財源調整をどうするか慎重に検討。

町民の健康づくりを推進するために

問 健康手帳を20代、30代の若い人たちにも活用できるように、内容を充実し、成人式でプレゼントするようにはどうか。成人の自覚の

と自分自身の健康に関心を持ついい機会になると思う。また、母子手帳も小・中学生から成人まで活用できるようにすれば、2冊あわせて一生の健康をサポートできるのでは。

平岡町長 母子健康手帳は成長や病気・予防接種の記録であり、20歳程度まで使用することは可能。健康手帳は現在、子宮頸がん検診は20歳以上、胃がん検診は35歳以上が対象で受診者に配り、健康管理に役立てていただく。

「広陵町食育推進計画」の策定を！

問 平成17年6月に食育基本法が成立し、7月に施行。平成19年3月には奈良県食育推進計画が作成された。広陵町でもさまざまな分野で、住民運動として食育を推進していくための基本指針となる食育推進計画を策定する必要がある。保健センターを事務局として取り組んでいただきたい。

平岡町長 食育は行政・家庭・学校・地域などさまざまな分野が一体となって推進する必要があり、行政内部でいろいろな事業分野での取り組みが必要。これらの基本方針からなる食育推進計画の策定に向け、取り組んでいく。